



### 産総研シリーズ「火山 -噴火に挑む-」

産業技術総合研究所 地質調査総合センター 編  
丸善(株) 発行  
四六判, 310頁+カラー口絵4頁  
2004年2月刊行, 定価1,500円(税別)  
ISBN4-621-07384-2

産総研の地質調査総合センター(旧・地質調査所)で行われている火山研究のうち, 特に噴火に関わりの深いものについて紹介されています。しかし, 単なる研究紹介に留まらず, 火山に関する一般向けの解説書としても読めるように書かれています。

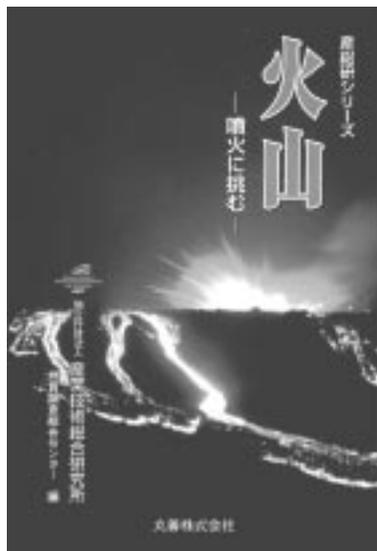
#### 【目次】

- 第1章 活動的火山の研究とは
- 第2章 有珠火山 -規則正しい噴火活動とそのメカニズム
- 第3章 三宅島火山
- 第4章 進化する富士火山
- 第5章 雲仙科学掘削:活火山の解剖

この本では, 最近10年ほどの間に社会的にも大きな話題となった有珠・三宅島・富士・雲仙という4つの火山が, 題材として取り上げられています。これらの火山については, 最近の噴火観測や科学掘削計画などによって, 次々と新しいことが分かりつつあります。そうした研究に実際に携わった当事者たちが, 最新の情報を盛り込みつつ, それぞれの火山・噴火について分かりやすく解説しています。

例えば有珠火山の章(第2章)では, 2000年噴火をドキュメンタリー風に紹介した後, 噴火のメカニズムや地下のマグマ溜まりの様子を, 噴出物の岩石学的分析をもとに推定した例が示されています。さらに, 噴火における地下のマグマの動きを, 山の地殻変動や地下水の水位変動という形で捉えたことが紹介されています。

三宅島火山の章(第3章)では, 2000年噴火がカルデラ形成という想定外の方向に進む中, 噴出物の分析をもとに, 噴火のモデルを提示するまでの様子が描かれています。また, 現在(2004年2月)も続く大量の火山ガス放出について, 観測の実態



やガス放出メカニズムの推定, そこから推察される現状と今後についての所見が述べられています。さらに, 三宅島火山の長い活動史全体から見たときに2000年噴火とは何であったのかが, 地質学的な視点から述べられています。

富士火山の章(第4章)では, 一見典型的な成層火山のように見える富士山の意外な面が次々と明らかにされています。例えば, 活動パターンが次々と変化し進化を続けている火山であること, 玄武岩質マグマの噴火では珍しいとされる火砕流が何度も発生していたこと, などです。また, マグマの通り道である岩脈を調べることによって火山の応力史を探る, というユニークな研究例なども紹介されています。

雲仙火山の章(第5章)では, 1990-95年噴火での観測・調査について, および現在進行中である雲仙科学掘削についてなどが紹介されています。そして, これまでの掘削によって初めて明らかになった雲仙火山の形成史が, 雲仙地溝の発達史と絡めて描き出されています。

このほか, 火山や噴火についての地球科学的な背景説明や, 地質調査総合センターにおける火山研究の概要などが, 導入部(第1章)で解説されています。

冒頭には, 噴火の写真などが掲載されたカラー口絵が4頁付いています。

(地球科学情報研究部門 東宮昭彦)